

活躍する自衛隊員 世界編

陸上

海上

航空

事務官
等

階級 氏名

- ① 勤務先
- ② 職種・職域

※階級、勤務先は2023年3月31日現在のもの

ロシア（モスクワ）



露軍演習視察

1等陸佐 ^{よしだ けんすけ} 吉田 賢輔

- ① 在ロシア日本国大使館
- ② 情報科



在露日本大使館での
天皇誕生日レセプション

情報戦の最前線で

私が着任して約8か月後の昨年2月末、ロシアによるウクライナ侵攻が始まりました。侵攻前から現在に至るまで真偽不明の情報が多数飛び交い、まさに情報戦の最前線にいることを実感する毎日です。そんな中、これまで自衛隊で培ってきた軍事に関する専門知識を総動員させ、自分たちにしかできないことは何なのかという視点を常に持ち、日々業務にあたっています。特に当地の武官団には、世界各国から200名以上の武官が集まってきており、各国・各人が持つそれぞれの視点からの意見を聞けることは大変貴重だと感じています。わが国の情報活動に少しでも貢献できるように、引き続き尽力したいと思います。

ウクライナ



C-2輸送機と著者

3等空佐 ^{やぎ ひろのり} 八木 洋徳

- ① 第3輸送航空隊第403飛行隊
(美保基地)
- ② 操縦



C-2輸送機への物資搭載の様子

C-2輸送機による ウクライナ支援のための 物資提供にかかる空輸

私は、空自の輸送機操縦者として勤務しています。2022年3月、ウクライナを支援するため、防弾チョッキなどの物資提供にかかる空輸に従事しました。様々な国を経由しましたが、各国との複雑な調整を経てポーランドで物資を引継ぎ、その際に頂いた大使館関係者の感謝の言葉に、我々の活動が危機に直面している人々の支えとなっていることを実感しました。日本人として、また自衛官として、誇りを感じました。

国際社会が不安定な中、自衛隊の活動の必要性が高まっています。いざという時に備えて訓練に励み、我々に与えられる任務を完遂したいと思います。

オーストラリア



航空機に乗り込む本人

1等空尉 ^{きりゅう あさひろ} 桐生 顕大

- ① 第7航空団飛行群第3飛行隊
(百里基地)
- ② 操縦



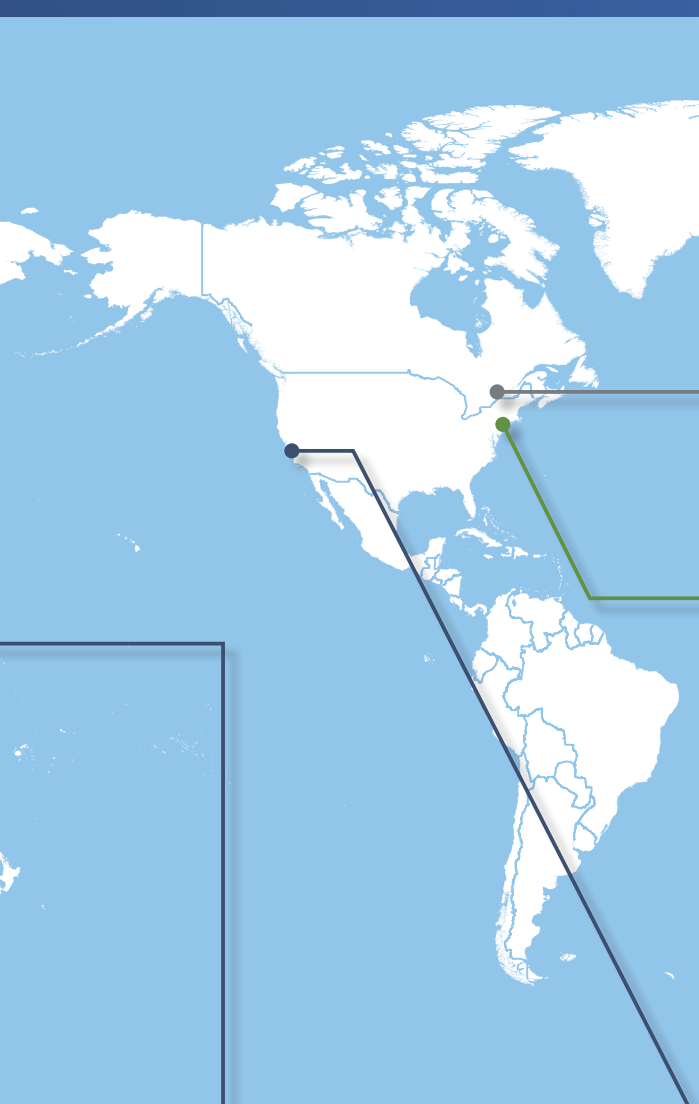
訓練オープニングセレモニーにて

ピッチ・ブラック22に参加して

私はF2戦闘機操縦者として、オーストラリアにて開催されたピッチ・ブラック22に参加しました。

訓練では、ドッグファイトと呼ばれる対戦闘機戦闘をはじめ、様々なミッションを豪空軍、米軍その他参加国の戦闘機部隊と共に行いました。会話は全て英語で行いましたが、一言に英語といっても国ごとに発音は異なり、うまく通じない場面においては、互いに身振り手振りによるボディランゲージを用いて、言語の壁を乗り越えました。

厳しい訓練を共に乗り越えて得た信頼関係は、今後の諸外国との円滑な連携への糧になると確信しております。



カナダ (オタワ)



レセプションで加海軍日本担当と懇談

一等書記官 ^{きむら やすゆき} 木村 泰之

- ① 在カナダ日本国大使館
- ② 事務官



有識者との意見交換 (左が筆者)

私は、防衛省から外務省に出向し、在カナダ日本国大使館の政務班で、安全保障・防衛や軍備管理・軍縮を担当しています。カナダ政府との交渉や協議に関する調整、情報収集、有識者との意見交換、日本からの要人対応の支援など、多岐に渡る業務を行っています。

カナダはG7の1国で大西洋・太平洋・北極海と3つの海洋に面し多様な人々から構成される自然豊かな広大な国ですが、昨年カナダのインド太平洋戦略がとりまとめられ、わが国とますます連携する機会が増えています。その最前線でカナダの同僚の人運と共に良い安全保障の確保を目指して邁進しています。

アメリカ (ニューヨーク州)



国連本部ビル前にて

2等陸佐 ^{あらかき じゅんこ} 荒木 順子

- ① 国際連合本部
- ② 高射特科



副軍事顧問オブライエン少将との出張 (南スーダン)

国連本部で世界の平和と安全をサポート

私は2022年7月からニューヨークの国連本部で軍事計画官として勤務しており、UNMISS※主担当としてマンデート遂行に必要な軍の定員、編成、装備及び部隊運用にかかる業務に従事しています。他にも副軍事顧問のコソボ、スーダン及び南スーダンへの現場視察に随行し、国連PKOの現場の状況をつぶさに確認しました。

紛争形態の変化や様々な脅威の存在により、現在のPKOの任務は多機能にわたり、現場はより複雑かつ困難な環境に置かれています。また、限られた予算の中で国際の平和と安全を維持することは簡単なことではありませんが、世界の国連加盟国の同僚とともに、引き続き要員の安全性向上を含むPKOの質的向上に取り組んでまいります。

※ UNMISS : United Nations Mission in South Sudan (国連南スーダン共和国ミッション)

シンガポール



勤務場所で撮影する筆者

2等海佐 ^{かばさわ ゆういち} 梶澤 祐一

- ① 米海軍第73任務部隊 (西太平洋兵站群)
- ② 経補

米海軍第73任務部隊での勤務

シンガポールはインド洋と太平洋とを結ぶマラッカ・シンガポール海峡とも面しており、地域の安定とわが国のシーレーンの安定のためにも重要な地域です。私は、シンガポールにおいて、ロジスティクスを所掌する米海軍第73任務部隊の連絡官として勤務しています。主な業務は、日米補給艦などの行動計画の確認及び提供であり、西太平洋における海自艦艇などと米軍との補給支援などの調整などを行っています。

現場調整などの実務を行うことで日米共同後方の深化に携わることができるのは貴重な機会であり、この経験を今後も活かしたいと思っています。

アメリカ (カリフォルニア州)



授業において意見を述べる筆者

3等海佐 ^{いとう ゆうき} 伊藤 優生

- ① 米海軍大学院大学 (海上自衛隊幹部学校所属)
- ② 情報



同期学生との集合写真 (筆者右から3人目)

米海軍大学院大学 (Naval Postgraduate School) 情報戦課程の留学

私は、2022年6月から2年間、カリフォルニア州に所在するアメリカ海軍大学院大学において情報戦工学修士取得を目指して勉強しています。本校は「科学と兵術が合わさる場所」を標榜し、戦略から戦い方、装備技術などを学術的に研究し、また科学的知見に基づく判断力を持った士官などを養成している大学院です。私はここで米軍士官と共に情報戦に関する技術、理論及び運用手法を学術的に学んでいます。情報戦は安定した安全保障環境を維持するうえで必須の業務であり、帰国後はわが国の情報戦関連業務などに貢献したいと考えています。

陸上

海上

航空

事務官
等

階級 氏名

- ① 勤務先
- ② 職種・職域

※階級、勤務先は2023年3月31日現在のもの

宮崎県 (新富町)



F-15 戦闘機の前での1コマ

空士長 ^{さいとう あんな} 斉藤 杏奈

- ① 第5航空団飛行群第305飛行隊 (新田原基地)
- ② 航空機整備

フィリピン空軍との 部隊間交流に参加して

私は、幼い頃から憧れていた航空機整備員としてF-15戦闘機を整備しており、主に飛行訓練や対領空侵犯措置任務に係る整備支援を行っています。

昨年12月に空自初となるフィリピンとの戦闘機による部隊間交流に参加しました。日本の戦闘機が初めてクラーク空軍基地に着陸し注目される中での着陸後の航空機の誘導はとても緊張しました。私自身初となる海外での活動であり、日本とフィリピンの部隊間交流に直接貢献することができ、非常にやりがいと誇りを感じました。

これからも自らの幅を広げ、自分らしく自衛官として任務に邁進していきます。



フィリピン空軍戦闘機の前で両国の整備員との1コマ：前列左端が筆者

長崎県 (佐世保市)



魚雷投射ロケットの整備中

2等海曹 ^{ふくだ まり} 福田 真理

- ① 佐世保弾薬整備補給所
- ② 魚雷員



フォークリフトでの搬出入作業の様子

弾薬整備で活躍する隊員

私は、佐世保弾薬整備補給所の整備第1部魚雷整備科にて勤務しており、護衛艦が搭載する魚雷投射ロケットの分解、試験、組立などの整備、これら弾薬の品質管理、整備で使用するチェックリストの改善などの業務を行っています。

弾薬は厳密な品質管理が必要ですので、甲種火薬類取扱保安責任者などの必要な資格を取ったうえで、不良品などの異状がないかを確認するなど、常に細心の注意を払い、万全の状態に整備することに責任の重さを感じていますが、護衛艦部隊などが不安なく活動ができるよう、日々誇りとやりがいをもって勤務に取り組んでいます。

沖縄県 (那覇市)



患者搭載準備

3等陸曹 ^{さわだ かいと} 澤田 海人

- ① 第15旅団第15ヘリコプター隊第1飛行隊 (那覇駐屯地)
- ② 航空科



救急隊への引継ぎ

離島からの緊急患者空輸

私は、航空機整備陸曹として陸自第15ヘリコプター隊第1飛行隊(那覇)で勤務しています。

第15ヘリコプター隊は、沖縄県及び鹿児島県の一部地域における離島からの緊急患者空輸に365日24時間態勢で待機しています。

私は、多用途ヘリコプターUH-60JAの整備担当者として、航空機を良好な状態に維持・管理しつつ、緊急患者空輸の搭乗員として患者さんの搬送支援などに従事しています。乗組員と連携して無事任務を遂行し、御家族の安堵した表情や感謝の言葉を受けると「次も安全に頑張ろう」と意欲が湧いてきます。

これからも国民の皆様へ少しでも多く貢献できるように日々精進し、任務に邁進していきます。

青森県 (三沢市)



警備犬の手入れ

2等空曹 ^{ささき しゅうへい} 佐々木 修平

- ① 第3航空団基地業務群管理隊 (三沢基地)
- ② 警備



捜索訓練

警備犬と任務に臨む者「ハンドラー」として

私は基地の警備を担当する警備職として、警備犬を扱う任務に従事しています。任務内容は飼育管理をはじめ、基地の警備における爆発物探知や災害発生時における行方不明者捜索など、多岐に渡ります。警備犬にも様々な感情や性格があるため、各警備犬に合った訓練の実施は極めて難しいですが、とてもやりがいのある仕事です。年々警備犬の活躍の場が増えているため、国民の負託に応えられるように日々精進するとともに、任務に邁進していく所存です。

今後、一緒に基地の警備や災害派遣活動に従事してくれるハンドラーの仲間が増えることを楽しみにしています。

東京都 (新宿区)



執務室にて

研究幹事 ^{ひょうどう しんじ} 兵頭 慎治

- ① 防衛研究所 (市ヶ谷)
- ② 防衛教官



講演 (防衛セミナー) の様子

ロシアによるウクライナ侵攻で注目された防衛研究所

ロシアによるウクライナ侵攻により、議員説明などの要請が相次ぎ、ロシア研究者としての研究成果を、タイムリーに発信することが求められるようになりました。防研の役割として、政策に資する研究、幹部自衛官などへの教育、信頼醸成に寄与する国際交流に加えて、一般国民の皆さんへの情報発信があります。連日の戦争報道を受けて防衛問題に対する関心が高まるなか、一般の方が抱く疑問に対し、これまでの研究成果を還元する形で可能な限り答えていくこととしています。防研の研究者一人一人が積み重ねてきた自己研鑽の内容が問われています。

京都府 (京都市)



爆弾の安全化準備をする筆者

陸曹長 ^{しばた ひろのり} 柴田 博紀

- ① 中部方面後方支援隊第103不発弾処理隊 (桂駐屯地)
- ② 武器科

不発弾処理隊員の仕事

私は中部方面管内全域の不発弾処理任務を有する第103不発弾処理隊において勤務しています。

不発弾処理で最も危険かつ難しい工程は、起爆装置である信管を取り外す「安全化」です。令和4年度は、この作業を愛知県名古屋で発見された米国製2,000lb (1t) 普通爆弾など合計6回実施しました。「安全化」は避難や各種規制など、住民に及ぼす影響が極めて大きいため、多大な精神的重圧がかかる反面、直接、民生の安定に寄与していると実感できる、やりがいのある仕事です。

これからも更に「技」を極め、「安全・確実」をモットーに不発弾処理にあたっていきます。



安全化した爆弾を車両に積載する筆者

東京都 (千代田区)



会議を進行する筆者

2等海佐 ^{ひがしかわ てつや} 東川 哲也

- ① 内閣府
- ② 水上艦艇

経済安全保障への貢献に向けて

内閣府政策統括官 (経済安全保障担当) は、令和4年5月に成立したいわゆる「経済安全保障推進法」の施行にあたり、法律に基づく事務を担当する組織として設置されています。具体的には、同法の着実な執行のため、①重要物資の安定的な供給の確保、②基幹インフラ役務の安定的な提供の確保、③先端的な重要技術の開発支援、④特許出願の非公開、の4つの制度の事務を行っています。

ここでの業務は私にとって未知の世界であったため、毎日が新たな発見の連続で、来る日も来る日も四苦八苦していますが、政府の取組に少しでも貢献できるよう、これからも尽力していきます。